

第4問 (20点)

機械加工時間を基準として製造間接費を部門別に予定配賦しているCPA製作所には、製造部門としては第1製造部門と第2製造部門があり、補助部門としては、修繕部門、工場事務部門および動力部門がある。下記の[資料]にもとづいて、(1)第1製造部門と第2製造部門の部門別予定配賦率を計算しなさい。また、(2)部門費配賦表を完成し、第1製造部門の当月実際操業度が2,580時間であった場合の勘定記入をしなさい。なお、補助部門費の配賦は直接配賦法による。

[資料]

1. 製造部門予算データ

	年間予算額	年間予定直接作業時間	年間予定機械加工時間
第1製造部門	31,200,000円	31,200時間	30,000時間
第2製造部門	36,000,000円	30,000時間	28,800時間

2. 当月実際部門個別費データ

第1製造部門	第2製造部門	修繕部門	工場事務部門	動力部門
1,405,830円	1,549,370円	701,800円	552,080円	452,720円

3. 当月実際部門共通費データ

費目名	金額	配賦基準				
		第1製造部門	第2製造部門	修繕部門	工場事務部門	動力部門
建物減価償却費	620,000円	600㎡	400㎡	120㎡	80㎡	40㎡
福利厚生費	482,000円	36%	44%	10%	6%	4%

4. 補助部門費配賦基準

	第1製造部門	第2製造部門	修繕部門	工場事務部門	動力部門
修繕部門	24回	30回	2回	—	4回
工場事務部門	18人	22人	5人	3人	2人
動力部門	1,600kW-h	1,400kW-h	600kW-h	200kW-h	200kW-h

**第 5 問** (20点)

C P A 工業では、工程別総合原価計算により製造原価を計算しており、製造間接費の配賦には部門別原価計算を採用している。部門は製造部門である第 1 工程と第 2 工程の他、補助部門として工場事務部門を設定している。下記の [資料] にしたがって、答案用紙の各勘定に適切な金額を記入しなさい。

[資料]

1. 工場事務部門に当月集計された第 1 次集計額は 324,000 円であり、第 1 工程と第 2 工程に 3 : 2 の割合で実際配賦する。
2. 製造部門に当月集計された第 1 次集計額は、第 1 工程 562,100 円、第 2 工程 431,420 円である。
3. 製造部門費は直接作業時間を基準に予定配賦しており、部門別予定配賦率は第 1 工程 1,000 円/時間、第 2 工程 700 円/時間である。
4. 直接労務費は予定賃率を用いており、工程別の予定賃率は第 1 工程 900 円/時間、第 2 工程 1,100 円/時間である。
5. 当月の実際直接作業時間は、第 1 工程 750 時間、第 2 工程 790 時間である。
6. 当月の生産実績データは下記の通りである。なお、( ) 内は加工進捗度を示す。

	第 1 工程	第 2 工程
月初仕掛品	300 個 (40%)	400 個 (50%)
当月投入量	2,900	3,000
合 計	3,200 個	3,400 個
正常仕損品	—	200
月末仕掛品	200 (60%)	300 (50%)
当月完成品	3,000 個	2,900 個

7. 各工程の月初仕掛品原価は下記の通りである。なお、月末仕掛品の評価は平均法である。

	直接材料費	前工程費	加工費
第 1 工程	64,600 円	—	72,600 円
第 2 工程	—	296,500 円	103,000 円

8. 第 1 工程で投入される直接材料、第 2 工程で投入される前工程品は工程始点で全量投入している。
9. 第 2 工程の正常仕損品は工程の途中点で発生している。
10. 計算上端数が生ずる場合、解答時に円位未満第 1 位を四捨五入しなさい。